

平成 30 年度

事業所名 : グループホーム四季の郷

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392500062		
法人名	社会福祉法人ふるさと福祉会		
事業所名	グループホーム四季の郷		
所在地	岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根北荒巻21番地19		
自己評価作成日	平成30年8月30日	評価結果市町村受理日	平成30年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/index.php?action=detail_2017_022_kani=true&ji_gyosyoCd=0392500062-00&PrfCd=03&VerSi=onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成30年9月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・利用者のニーズに合わせたサービスの提供、選択の意思決定、家族との信頼関係を築く等、定期的に評価・改善し業務に取り組んでいます。
- ・日常生活の中で回想法を用いて、利用者と職員が会話をし、笑い声が聞かれたり、お互いに気づきながら食後の片づけ等を行い、活気にあふれ楽しく過ごしています。また、希望を把握し、散歩、草取り等個別対応を行っています。
- ・法人のデイサービスセンターと連携し、歌謡、民謡ショーや地元中学校吹奏楽部の演奏を手拍子をしたり、口ずさみながら交流しています。また、保育園児との交流を楽しんでいます。
- ・地元高校野球部による除雪ボランティアなど継続した交流を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念を基本に、事業所職員でつくりあげた「潜在能力の掘り起し、利用者の体調管理、地域との繋がり、職員の自己研鑽」の4項目を私たちの理念として掲げ、そのうえで定めた事業所の進むべき方向「家庭的な雰囲気、その人らしさを活かした生活」に沿って、毎月、具体的支援の状況を振り返り、改善の方向等を見える化している。日頃から、法人のデイサービス事業所の利用者、雪かきしてくれる地元高校生や清掃や草取りに来ていただく地元の皆さんとの交流を深めている。更に、事業所が地域のお役にと行っている「認知症に関する講話」は、事業所・職員に対する地域からの信頼にも繋がっている。包装紙などのつまみしい材料で見事な‘干支’の貼り絵が談話室に、利用者の好みの‘リース’が居室入口に飾られ、明るく賑やかな活気と職員の細やかな気配りが窺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		んじょくいで		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

平成 30 年度

事業所名 : グループホーム四季の郷

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に「私たちの理念」を掲示し、毎月の職員会議で唱和し共有している。	法人の理念を基本に、潜在能力の掘り起しや地域との繋がりなど、職員として遵守・配慮すべき4項目を私たちの理念としている。更にチームウェイとして具体的な目標を立て、月毎の支援状況振り返りや改善に向けた方策について、管理者が評価し、不断のレベルアップに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年地元高校の野球部員、父兄が雪かきボランティアで来所している。民生委員による歌や踊り、会話を楽しんでいる。	事業所の見学会に参加したり、散歩・敬老会で知り合った地域の方々が、草取りや歌や踊りのボランティアに訪れている。また、地元高校の野球部員も父兄と一緒に雪払いしてくれるなど、年代を問わず、地域との交流が深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の見学会を通して支援の実践を説明をし、地域の方々に認知症について理解を深めて頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や施設の状況報告と共にサービスについての取り組みを報告し意見等を頂いている。委員を通して、事業所の見学会や歌、踊りのボランティアがあり交流ができた。	事前にテーマをお知らせし、法人他事業所と合同で開催している。認知症の勉強会や推進委員参加の避難訓練も併せて実施している。運営推進委員の尽力も得て、ホームの見学会や、歌や踊り等のボランティアの受け入れも盛んになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の職員に介護について町の取り組みについての説明会を行って頂く等協力を得ている。介護相談員が訪問し利用者・職員と話し実情を伝えている。	町の生活保護担当者や介護相談員が毎月来訪し、その都度、意見を伺い情報交換も行っている。利用者全員の様子を見聞きしたうえで、状況に応じたアドバイスを頂くこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3ヶ月に1回開催し、身体拘束の無い支援について共有し、実践している。社内研修会を実施し職員間で理解を深め取り組んでいる。	玄関や談話室、居室棟への出入り口には職員の工夫で音色の違う風鈴が吊るされ、職員はそれを聞き分けてさりげなく声掛けしている。身体拘束委員会が中心になって、厚生労働省身体拘束ゼロの手引きを使い3ヵ月毎に職員研修を開催している。	

[評価機関 : 特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての社内研修会を実施し職員の意識向上に努めている。日常生活での言動に気を付けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について社内研修会を実施し制度の理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居後の生活について利用者、家族に説明し、納得の上で契約締結となっている。不安軽減の為話しやすい雰囲気作りに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話等により利用者、家族の意見や要望を聞き入れ、日常生活に反映出来るようにしている。	本人・家族の意見・要望は面会時あるいは電話や手紙で把握することが多い。季節の衣服の交換を家族に月初めに連絡し、面会のタイミングを効果的にすることが出来た。家族が面会時に遠慮することなく意見・要望を話せる雰囲気づくりに努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の運営会議で事業所の課題や提案を報告し、運営に反映させている。	何時でも気づいた時点で、互いに意見を言いやすい職場環境が出来ている。外気に触れさせたい、散歩を増やしたい、とろみをつけた食事など、家族からの希望や提案を具体化し、介護の改善に結び付けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりが責任を持ち、お互いにやりがいのある職場になるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修に参加して、職員の意識技術向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	お互いのグループホームの職員が来所、訪問し支援について情報を交換し、サービスの質や意識向上につながっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の訪問で本人、家族、施設職員より現在の状況や要望を把握し、早期に信頼関係を築けるように努めている。利用者が安心して生活できるように、寄り添って傾聴している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族の心配、要望を十分に把握しより良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望を受け止めて、サービス計画に取り入れている。担当ケアマネジャーより情報を得てサービスに活かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、一人ひとりの有する力を把握し、一緒に掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ草取り、野菜の収穫を行っている。利用者同士が自ら協力し合うこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月家族へのおたよりで利用者の生活状況を伝え、協力を得ている。面会時には、最近の様子を伝えると共に、ゆっくり過ごして頂けるように配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の親戚、近所の方が訪問し、和やかに過ごしている。又、一緒に出掛ける事もある。最近の様子を伝えたり、入居前の情報等を聞き、支援に繋げている。年賀状や暑中見舞いで生活の様子を伝えている。	高齢化が進み、馴染みの方も減ってきており、利用者は親戚や近所の方々の面会を楽しみにしている。馴染みの床屋との会話も楽しまれている。同級生や兄弟との年賀状等の交換を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの関係を把握し、お互いに穏やかに対等に接し合えるように、職員が間に入り笑顔で話しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院となった際は様子を伺いに行く等対応している。家族・本人の相談にも対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者についての情報を共有し希望や意向を把握している。意志表示の困難な方には寄り添いながら意思を推し測っている。	職員は顧客満足や接遇の研修を受講し、センター方式も参考に利用者の思いや暮らし方の把握に努めている。入浴時などリラックスしている時には、食べたいもの、行きたいところ、やりたいこと等、素直な気持ちで思いを話してくれることが多く、職員間で些細なことも共有するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の調査や、担当ケアマネジャー、家族が話しやすい雰囲気作りを心がけ、情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの有する能力を把握して役割を持って頂いている。体調や状態の変化に応じている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族からの情報、個別記録から状況の変化等、職員会議で話し合いをしている。本人や家族の思い要望等、変化に応じて計画に取り入れている。	担当者が利用者・家族の意向を把握したうえで、ケース記録や業務日誌も参考に職員会議で話し合い、必要に応じて受診結果も加味しながら、6か月ごとに見直している。職員全員が共有できるプランとなるよう心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子についての気づきや、実践したことを個別記録に記入し、話し合いをしている。情報を共有し支援の見直しや介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	畑の草取り等希望されたときは職員と一緒に実施し、疲れのないよう様子観察を行っている。家族の協力でお墓参りや法要に出かける支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアに窓拭き掃除等協力して頂いている。歌や踊りを披露され一緒に楽しんでいる。図書館より定期的に配本サービスを受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が訪問診療を受けており、利用者の状態の変化を詳しく報告している。急変時等体調の変化が見られた際は主治医に報告し、指示を頂いている。緊急時家族が通院困難時に職員が対応している。	殆どの利用者は月2回の訪問診療を利用している。体調急変時には事業所の看護師を通じて、主治医の指示を得、場合によっては往診も出来る体制になっている。感染症の予防注射は利用者全員がホームで行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化時は、職場内の看護師に、不在時は隣接事業所の看護師に報告、連絡、相談をして、健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、医療機関に情報を提供している。入院中は病院を訪問し、情報交換等、連携を図り支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けての指針を作成し、入居時に説明、同意を得ている。又、職員間で共有している。各職種が連携し、家族の協力のもと、支援に取り組む事としている。	入居に際し利用者・家族に看取りの方針を説明し、同意を得ている。昨年利用者1人を看取ったことで職員も一つ壁を乗り越えた感がある。今後はかかりつけ医と連携し、家族と共にスムーズな終末期の対応が出来るよう、事業所内での研修を重ねたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命、AED使用の講習を社内研修で定期的に受けている。急変時や事故発生時に備えてマニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て年2回夜間、昼間を想定した火災避難訓練を実施している。隣接の法人事業所と合同で行うこともある。定期的に発電機の使用確認を行っている。	訓練は年2回、昼と夜間を想定し、事業所単独又は隣接法人と合同で実施している。運営推進委員と地域の方々4名に避難、誘導、見守りの協力を頂き、効果的な訓練となっている。非常食は約1週間分を備蓄し、職員のAED訓練も定期的実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の性格や生活歴等を尊重し、人前で恥ずかしい思いをさせないよう声掛けに配慮している。プライバシー保護の研修会を実施し毎日のケアに努めている。	年1回プライバシーの研修を事業所で行っている。人生の大先輩である利用者に敬意を込め、声掛けは「さん」づけで呼んでいる。朝の挨拶は、目を見て、まず、その日の様子に応じた話題で会話するよう心掛けている。誉めたり、笑わせたり、活気を呼び起こすような働き掛けも実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や意思を大切に、入浴や散歩、レクリエーション等体調に合わせて自己決定をしている。積極的に掃除や洗濯物たたみ干し方、食後の片づけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの性格や生活歴を元に、その日の体調、ペースに合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容師に訪して頂き、散髪や顔そりをして頂いている。生活の中で自分で身だしなみを整えられるように、ブラシを手渡したり、髭剃りの声掛け・確認を行い支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片づけをしている	希望の献立を聞いたり、旬の食材や家庭菜園の野菜を加え、食卓の話題にしながら楽しく食事をしている。季節の野菜の皮むき、食後の下膳、テーブル拭きを一緒に行っている。	献立・調理は職員が交代で担当している。利用者は職員と一緒に野菜の皮を剥き、テーブルを拭いている。自家菜園での玉ねぎ等の収穫は利用者も手伝っている。食事は、職員の提案でとろみをつけたり量を調整したりと、こまめに工夫し、コントロールしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた献立の工夫をしている。食事量、水分摂取量を毎回記録している。食事量がすくない方には、好みのものに変えたり水分量が少ない方には、こまめに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の声掛けや誘導、介助等利用者のレベルに合わせて支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせたトイレ誘導をしている。夜間も1人ひとりに寄り添い、トイレで排泄できるように支援している。	排泄チェック表に沿って、個々に合わせたトイレ誘導に心掛けている。少しでも自立に近づきたいが、加齢もあり現状維持が実状である。夜間にポータブルトイレを使用し自立排泄されている方が1人いる。殆どの方が、パットを使用しながら支援を受けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために食事メニューを工夫したり、必要に応じて下剤を服用しながら、排便コントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望を聞き入れながら、入浴をしている。入浴時に楽しく会話ができるように、話題を提供している。入浴剤を入れて温泉気分を楽しんで頂いている。	入浴は週3回、1日4人づつ介助者付きで利用している。入浴時に会話を勧め、職員から話題を提供して楽しいひと時になるよう努めている。衣服の交換・着脱は、出来ないところだけ手伝うようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の一日の生活リズムに合わせて休息したり、夜も安心して眠れるよう声掛けを行っている。温度、湿度等快適に過ごして頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった場合は、様子観察し、変化等の症状が見られた時はすぐに主治医に報告している。確実に服薬出来るように職員間で声だし確認し、介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の出来る範囲でモップ掛けや洗濯物たたみをして頂いている。希望に応じて散歩などで気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	隣接事業所での行事に参加し楽しんでい。また、家族の協力でお墓参りや、外食を楽しんでいる方もいる。	敷地内の散歩や自家菜園の種蒔きのほか、隣接事業所の運動会や文化祭・敬老会に参加したり、秋祭りのさんま焼きに外出している。家族と買い物ついでに、食事を楽しんで帰ってくる利用者もいる。	季節に応じたテーマ等を掲げるなどしながら、健康のためにも、好天時には日光浴を兼ね無理のない範囲で外気に少しでも多く触れる機会を工夫されるよう期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて職員と一緒に買い物に出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状にコメントを添えて家族に出している。また、家族からの電話を取り次いだり、希望に応じて電話をかける等支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下に写真や季節の飾りや利用者の作品を飾っている。天気の良い日には、窓を開けて朝の清々しい空気を取り入れている。	明るく気持ちよい談話室は窓を開け清々しい空気を取り入れている。廊下に続く談話室の壁には利用者と職員で作上げた見事な「干支」の貼り絵が飾られている。ゆったり落ち着いた雰囲気の中で、利用者は思い思いに寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内のソファやリクライニング椅子に座り、お互いに会話を楽しんでいる。また、和室の畳の感触を味わいながら、過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分で作った手芸作品や家族写真を飾り安心して過ごして頂いている。また、使い慣れた枕を持ち込み、安眠に繋げている。	居室の名札には手づくりの造花を添え、入りロディアの外側には利用者の好みのリースと、職員の細やかな配慮が窺える。居室にはベッド、クローゼット、洗面台が備えてあり、家族写真や自作の貼り絵等が飾られてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動や歩行ができるように、バリアフリーになっている。また、クッション性の床材を使用している。場所が分かるように案内の表示をしている。		